

第2期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像

資料1

人口ビジョン

人口の減少

- 将来推計人口
181,169人(2010)→106,088人(2040)
- 人口減の主な要因(現時点)
【社会減】
若年層(進学・就職期)の転出超過
【自然減】
出生率の低下⇒1.35(2013)
女性(20～39歳)の減少
- 自然増減よりも社会増減の影響度が大きい

課題と影響

- 若年層流出による次世代人口の縮小
- 若年女性人口減⇒少子化の加速
- 生産年齢人口減⇒生産力の低下
- 人口減による消費活動の縮小⇒雇用の縮小⇒経済活動の縮小⇒域際収支の縮小
- 都市機能(公共交通、医療、住環境等)の縮小・悪化など

将来の展望

- 合計特殊出生率
1.35(2013)→2.07(2040)
- 純移動率
転出:10%減・転入:10%増
20～39歳の年代の移動率20%増
- 目標とする人口
13万8千人(2040)・12万6千人(2060)
- 目指すべき将来の方向
特に「社会減」に歯止めをかけ、親になる世代に釧路に定着してもらうことが重要

人口減少の分析
・推計・将来展望

総合戦略

目指すべきまちづくり

つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

釧路市まちづくり基本構想

目指すべきまちづくりを実現するための考え方

域内連関

地域内の様々な主体がテーマを共有し、それぞれの強みや地域資源を生かしながら、付加価値の創造や地域課題の解決に向けて行動する考え方。

重点的に取り組むべき施策

重点戦略

- ☆「まちの活力を高める経済活性化戦略」
- ☆「地域経済を担う人材育成戦略」
- ☆「経済活動を支える都市機能向上戦略」

整合

第1期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略

目指す都市像の実現に向けての最優先課題

最優先課題

☆「域内循環」と「外から稼ぐ」取組の推進などにより、力強い経済基盤を構築し雇用の創出などを図り、親になる世代を確保して急激な人口減少に歯止めをかけます。

対応

最優先課題と
基本的な考え方

第2期 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略

分野別 基本目標と施策

基本目標1 地域の魅力を生かして、経済・産業・交流人口・関係人口の拡大を目指す

- ① 釧路らしさを生み出す農林水産業の成長産業化
- ② 釧路の「食」の高付加価値化と地場産品の販路拡大
- ③ 釧路の自然文化を生かした世界一級の観光地域づくり
- ④ 中小企業・小規模事業者の「外から稼ぐ力」の強化
- ⑤ 地域に根ざした石炭産業の振興
- ⑥ 釧路の強みを生かした交流人口・関係人口の拡大

基本目標2 雇用・就業機会の創出と地域を支える人材育成・人材確保を図る

- ① 地域を支える人材の確保
- ② 地域特性を生かした企業誘致
- ③ 釧路の強みを生かした移住・定住の促進及び関係人口の創出
- ④ 安心な暮らしを守る人材づくり
- ⑤ 就労自立支援対策

基本目標3 地域が支え、安心して働ける環境をつくる

- ① 結婚や妊娠を支える環境づくり
- ② 安心して子どもを生み育てられる環境づくり
- ③ 子どもの成長を支える環境づくり
- ④ 医療・保健サービスの充実

基本目標4 持続可能なまちをつくる

- ① コンパクト・プラス・ネットワークの推進
- ② ひがし北海道の中核都市としての拠点性の向上

各分野における対策